

校長室より

## 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校

校長 鵜飼敦之

### 2学期始業式より

#### 関東大震災から100年 備えよう「物と心と人」

暑い暑い夏が終わり、新学期が始まりました。まだまだ残暑が厳しいようです。始業式の挨拶を紹介します。

おはようございます。

2学期を迎えました。夏休み中、大きな事故もなく、皆さんが元気に登校できたことを嬉しく思います。この夏休み中、皆さんはそれぞれの目標に向けて取り組んだことでしょうか。部活動や研修旅行、勉強合宿など様々な活動がホームページでも紹介されていますし、先生方からの報告がありました。皆さんの活躍の様子を頼もしく嬉しく聞きました。それらの活動などの経験を一過性のものとせず、継続して取り組み、更に成果をだせるようブラッシュアップしてください。



今年の日本列島の夏は、猛烈な暑さでした。記録的な暑さで、災害級とも言われました。世界的に見ても地球全体の温暖化も影響しているからでしょうか環境被害も耳にしました。世界各地で山火事が発生し、ハワイでの火災は記憶に新しいと思います。災害の中でも火災は、人命はもとよりすべてを奪っていく悲しい災害です。

さて、すでに報道等でも取り上げているように今日9月1日は関東大震災が発生して100年が経ちます。関東大震災も火災がその被害を大きくした要因です。皆さんの居住地域でもある墨田区の両国駅の北側には震災慰霊堂が建てられていますが、当時は空き地（陸軍被服廠跡）となっており、押し寄せた避難民に竜巻のような火災旋風が襲い、一瞬のうちに火の海となったようです。「地上にある人間世界とは思われぬ悲惨さである」と当時の新聞は伝えていますが、関東大震災の死者10万5千人のうち、3割がこの地で亡くなっています。

地震と火災の話は他のメディアに譲り、今日はSNSと災害について、話をしましょう。1学期の終業式でもSNSガイドラインの話をしました。不用意に情報を信じたり、拡散したりすることの無いようにしましょうという注意喚起をしました。

戦争や災害、感染症の蔓延などによって我々が社会状況に対して不安や恐怖を抱くとき、さまざまな誤った情報（デマ）が広く社会に拡散されるようになります。そして、わずかな情報も鵜呑みにしてしまいがちです。

新型コロナウイルスが拡大し始めた2020年4月頃、トイレットペーパーが品薄になりました。「トイレットペーパーの多くは中国で製造・輸出されているため、コロナの影響で不足する」というデマがSNS上に投稿されたのがきっかけです。すぐに製紙業界団体が否定しましたが、このデマの否定情報が皮肉にも拡散され、品薄を招いたのです。実際に買い占めに走った人たちは、「私はデマなんかにだまされない」と思いつつも「でもきっと世間の人々はデマにだまされてトイレットペーパーを買い占めるに違いない、そうすると自分は大変困る」と考えていたのです。現に1月末頃からはマスクが入手困難な状態が始まっている状況で、社会に対する漠然とした不安が引き起こした現象と考えられます。

関東大震災でも「流言飛語」、つまり根拠のない無責任なうわさやデマから多くの日本に在住の朝鮮人が虐殺されるという悲惨な事件が発生しました。地震の混乱の中で「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れるのを見た」「朝鮮人が火をつけた」などの噂が広まり、信じ込んだ人々による朝鮮人殺傷事件が発生しました。町ごとに自警団という組織が作られ、町を通過する人をチェックするという体制がとられます。実際に日本人と見分けるために日本語のチェックをし、正確に発音できないと朝鮮人と見做され、猟銃や日本刀などで斬殺されたり、襲われたりといったことが実際に起きました。

この背景には、当時、日本が朝鮮を併合していたため、日本を快く思っていない朝鮮人が暴動等を起こしかねないといった潜在意識が根底にはあったと考えられます。コロナの時と同様に社会に対する不安がパニックを引き起こした事件と言えるでしょう。

今の日本社会には外国にルーツをもつ人々が多く暮らしています。首都直下地震は今後30年以内に70%の確率で起きるとされている中で、地震等の発災時に、外国人等を排除することが無いような行動が必要ですね。

本日は避難訓練が予定されています。そこで避難訓練で気をつける5つの指標を知っていますか？

『おかしもち』

「押すな、駆けるな、しゃべるな、戻るな、近寄るな」。小学生の頃から標語として覚えていることでしょう。では、それに追加してデマやフェイクニュースに騙されないために、どこに注目してSNSの情報を見極めれば良いのでしょうか。防災の専門家が提唱している6つの指標を紹介しましょう。

『だいふくあまい』

「誰が言ったの、いつ言ったの、複数で確かめたか」

「安全を確保して、間違いのない情報を、位置を添えて」

地震を防ぐことは出来ませんが、自分の身を守り、「物と心と人のつながり」の備えをしっかりとすることが大切です。

